

平成25年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	申込締切 等	授業開始 日	試験日
九州大学	《箱崎キャンパス》 (文学部) 文化人類学講義Ⅶ	飯嶋 秀治 准教授	人類史300万年のうち、299万7千年を占めていた狩猟採集漁労民の環境世界とそれに適合した文化を、オーストラリア先住民および水俣の漁村の事例を通して考える。	学部学生2,3年生	遅刻、途中退席はしないこと、携帯off、私語厳禁	30人	2	毎週		4月18日	未定
	《箱崎キャンパス》 (文学部) 文化人類学講義Ⅷ	飯嶋 秀治 准教授	フィールドで聞き取ったお話をどのように分析、考察してゆくのか、その質的分析手法と理論を学ぶ	学部学生2,3年生	遅刻、途中退席はしないこと、携帯off、私語厳禁	30人	2	毎週		10月3日	未定
	《箱崎キャンパス》 (文学部) 文化人類学演習Ⅰ	飯嶋 秀治 准教授	熊本県水俣市の漁村で、人生史を聞き書きします。現地に失礼があってはならないので、日常生活の時間が守れない方などはお断り申し上げます。たがこの1週間の実習を通じて、文化人類学の見方、インタビューの仕方などが身につくことは嬉しいです。	学部学生2,3年生	親族の不幸や病欠以外の欠席は認めず。夏休みに1週間の実習を行うので1回目の授業説明に必ず出席すること。	10人	2	毎週+夏休みに1週間の現地実習		4月18日	なし
	《箱崎キャンパス》 (文学部) 文化人類学演習Ⅱ	関 一敏 教授	文化人類学演習Ⅰで行った聞き書きの分析と考察を経て、報告書を作成し、現地に配りにゆきます。	学部学生2,3年生	文化人類学演習Ⅰの既修者のみ。報告書を仕上げた上で現地に返却するまで放棄しないこと。	10人	2	毎週+分析時に随時集まり、報告書返却などの現地訪問あり		10月3日	なし
	《箱崎キャンパス》 (文学部) 人文学Ⅱ	片岡 啓 准教授	『生と死の哲学』を主題として、1講師1話のオムニバス形式の講義を行う。講師陣は、哲学、歴史学、文学、人間科学の諸学からなり、「生と死のまなざし」「アジアにおける生と死」「文学における生と死」「生と死を超えて」などを主なサブテーマとする。教科書『生と死の探求』を携帯して臨むように。	学部学生2年生以上	なし	30人	2	毎週		10月2日	未定
	《箱崎キャンパス》 (留学生センター) 現代の日本とアジア太平洋 Japan and the Asia-Pacific in Modern Times	テオ・シーヘン(シンガポール大学・准教授)	This course aims to provide an understanding of Japan's interest in and approaches to the Asia-Pacific by examining selected themes in Japan's interactions with the Asia-Pacific in modern times, from 1868 to present times. Such themes include imperialism and colonialism, nationalism and internationalism, war and peace, economic and cultural interactions, roles of state and non-governmental actors, and Japan's approaches to Asia-Pacific regionalism. This course will consist of two sections. Section I will examine Japan's engagements in the Asia-Pacific from 1868 to 1945 while Section II will analyze Japan's interests and roles in the Asia-Pacific from 1945 to present times. The focus is on the regions of East Asia and Southeast Asia.	特になし	英語での授業 TOEFL530以上	若干人	2	毎日(土日を除く) 3限または2限※時間変更あり、HP要参照(www.isc.kyushu-u.ac.jp/atw/courses/htm)	6月7日	6月26日	7月12日
	《箱崎キャンパス》 (留学生センター) 異文化関係論 Cross Cultural Relations: Understanding and Dealing with Contexts	バルマ-アンヘレス アントネット(アテネオ・デ・マニラ大学准教授)	Admittedly, a few students from Europe and the United States have always been attracted to Asia, but in the mid-90s large groups of them started coming even to Asian countries which were not traditional destinations. As a result of these large student movements from West to East, Western students have become more sensitive and appreciative of the cultural diversity of Asia. More importantly, in the last ten years, perhaps because this century has been dubbed the Asian century, and the spread of Korean, Taiwanese and Japanese pop culture in the region, Asian students have increasingly been studying in Asian universities instead of going to the Western countries. Consequently, a new breed of young Asians is slowly emerging from ignorance and stereotypes of their neighbors wrought largely from the colonial past of many Asian countries. Like their Western counterparts, Asian students are not only discovering the diversity of Asian cultures but also discerning some common threads that cut across the diversity and understanding of what makes their Asian.	特になし	英語での授業 TOEFL530以上	若干人	2	毎日(土日を除く) 3限または2限※時間変更あり、HP要参照(www.isc.kyushu-u.ac.jp/atw/courses/htm)	6月7日	6月26日	7月12日
	《箱崎キャンパス》 (留学生センター) 東アジアのなかの日本:政治、社会のダイナミクス Japan in East-Asia: the Dynamics of Politics and Society	バンオーベルベケ・ディトリ(レウヴェン・カトリック大学・教授)	The course offers an overview on ideas, theories and methodologies on area studies with relation to East-Asia in a transnational and global perspective. The purpose of the course is to familiarize students with scientific tools and concepts to understand, describe and analyze East-Asia both in the context of transnationalization and globalization and also to make them familiar with recent developments in regional cooperation in Asia. This course will focus first on regionalism in East-Asia and second on recent political developments in Japan in a global context. We will start the class with 10 minutes of analysis of the main topic in the day's newspaper and end with 10 minutes of a movie on a topic relevant to understand contemporary Japanese society.	特になし	英語での授業 TOEFL530以上	若干人	2	毎日(土日を除く) 3限または2限※時間変更あり、HP要参照(www.isc.kyushu-u.ac.jp/atw/courses/htm)	6月7日	7月22日	8月8日
	《箱崎キャンパス》 (留学生センター) 日本文学における「死」の考察 Death in Traditional Japanese Literature in the Asian Context	ビニングトン・ノエル(アリゾナ大学・准教授)	This is a survey of the literary treatment of death and killing in the Japanese tradition from the 7th to the 18th centuries. The course is both a chronological introduction to the literary tradition and an investigation of Japanese conceptions of death, with particular attention paid to origins in mainland culture and contrasts with that culture. All materials will be read in English translation	特になし	英語での授業 TOEFL530以上	若干人	2	毎日(土日を除く) 3限または2限※時間変更あり、HP要参照(www.isc.kyushu-u.ac.jp/atw/courses/htm)	6月7日	7月22日	8月8日
	《箱崎キャンパス》 (人間環境学府) 人間共生論Ⅰ	飯嶋 秀治	人間共生論は、これまでの社会科学で質的なフィールドワークに、臨床心理学的なアプローチを加味することで、罹災地などのフィールドにも対応できる姿勢づくりをめざしてきました。今年度は臨床的な聞き取り、調停的な介入などを学びつつ、学部学生とともに熊本県水俣市で夏休みに1週間のフィールドワークを行う。	大学院修士課程以上	現地に迷惑をかけるはならないので、基本的には親族の死別や疾病以外の理由での欠席はみとめられません。初日に詳細はお話しいたします。また、本講座は後期に行う人間共生論Ⅱも履修することが前提になります。	5人	2	毎週水曜5限(予定)	4月25日(予定)	4月17日(予定)	なし(夏休みの1週間のフィールドワークとそのレポートの提出)
	《箱崎キャンパス》 (人間環境学府) 人間共生論Ⅱ	飯嶋 秀治	人間共生論は、これまでの社会科学で質的なフィールドワークに、臨床心理学的なアプローチを加味することで、罹災地などのフィールドにも対応できる姿勢づくりをめざしてきました。今年度は学部学生とともに熊本県水俣市で夏休みに1週間のフィールドワークに基づいて、その報告書にまとめ、現地発表をするまでを行います。	大学院修士課程以上	現地に迷惑をかけるはならないので、基本的には親族の死別や疾病以外の理由での欠席はみとめられません。また、本講座は前期に行う人間共生論Ⅰを履修していることが前提になります。	5人	2	毎週水曜5限(予定)	10月15日(予定)	10月2日(予定)	なし(報告書原稿執筆と現地発表、報告書の返却まで)
	《箱崎キャンパス》 (システム生命科学府) 生命情報工学通論	内田 誠一、久原 哲岡、本正宏、田代 康介	生命科学系の大学院生にとって有用な生命情報・生命工学系の基礎的な事項(情報、シミュレーション、画像処理など)の概要を理解する。	生命系学部出身大学院生	無し	10	2	平日2コマ連続、毎週、前期前半(4月~6月)箱崎地区で開講	4月15日	4月17日	授業の進行状況により受講生へ通知する。
	《箱崎キャンパス》 (システム生命科学府) 生命科学通論	仁田坂 英二	生命情報・工学系の大学院生にとって有用な生物およびそれらが構成する生態系のなりたちについて、遺伝子の働きに主眼を置いてミクロレベル(分子・細胞)からマクロレベル(進化・生態)まで理解する。	情報・工学系学部出身大学院生	無し	10	2	平日2コマ連続、毎週、前期前半(4月~6月)伊都地区で開講	4月15日	4月16日	授業の進行状況により受講生へ通知する。
	《箱崎キャンパス》 (統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻) 情報システム論	井上 仁	情報を管理し、ユーザーへ必要な情報を提供するのための情報システムに関する講義である。具体的には、情報システムを支える基盤技術(データベース、ネットワーク、セキュリティ、認証など)の概論と実際のシステム例、システムの技術的な改善や新規開発などの技術革新を両立し分析するための原理と技能を学ぶ。	修士課程1年次以上(担当教員の履修許可のある者) ※学部生が履修を希望する場合は、担当教員の履修許可に加えて、所属長の許可を必要とする。	特になし	若干名	2	前期:月曜3限	4月19日(4月15日)の初回講義を必ず受講し、担当教員の履修許可を得ること	4月15日	未定

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	申込締切 等	授業開始 日	試験日
15	《箱崎キャンパス》 (統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻) 電子資料開発論	井上 仁	知の創造・継承を支援する情報通信技術、eラーニング、マルチメディア教材、電子書籍作成、学術情報発信のためのシステムに関する講義である。	修士課程1年以上(担当教員の履修許可のある者) ※学部生が履修を希望する場合は、担当教員の履修許可に加えて、所属長の許可を必要とする。	特になし	若干名	2	後期:木曜2限	10月12日 (10月4日の初回講義を必ず受講し、担当教員の履修許可を得ること)	10月4日	未定
16	《伊都キャンパス》 (全学教育・医学部) 放射線とは何だろうか?	世話教員: 齋藤久(医)、分担任教員: 豊福不依(医)、佐々木雅之(医)、平田秀紀(医)、百島則幸(RI)、工藤和彦(東アジア環境研究)、古市正人(RI)、学外非常勤講師: 神谷研二(広島大)、甲斐倫明(大分県立看護科学大)。	身近なところに存在する「放射線」並びに「放射性同位元素」等に対する理解からスタートし、主として医学系の応用に重点をおいて講義を構成します。これまであまり学ぶ機会がなく、このまま社会に出て以降主にマスメディアからの受身的な「放射線」に対する理解を基に色々なことを判断することになるのではないのでしょうか。平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う、東京電力福島第一原子力発電所からの放射線・放射性物質の大量放出・拡散により、福島県はもとより広い地域の住民の方達の不安が増えています。今後、如何にして「放射線」並びに「放射性同位元素」と向き合うのか等を含めて考える契機となるように、話題提供をしたいとします。講義の終盤には「自然放射線の測定」等の実習を含みます。	放射線に興味がある学生。	全4日間受講できること。	九州大学以外20名(多い場合は、各大学先着5名)	2	集中:8月6日(火)~9日(金)	別途掲示物を準備予定。	8月6日(火)	レポート課題の締切を8月20日前後に設定予定。
17	《伊都キャンパス》 (全学教育・芸術工学部) デザイン学	尾方義人	私たちの生活と大変関わり合いの大きいデザインというものを、色やカタチ・環境などから幅広く考えていきます。講義・演習・事例紹介の構成で、具体的なデザイン思考法の取得・理解、普段の生活のためのデザインの読み方・使い方の経験、デザイン分野以外への適用、これらを行います。	限定しない	特に無し(何の準備もいりません。デザインに対しての興味さえあれば結構です。)	制限無し	2	集中	別途掲示物にて案内	9月中下旬開講予定	試験無し。レポートなどの課題提出。
18	《伊都キャンパス》 (統合新領域学府オートモティブサイエンス専攻) 自動車電子デバイス特論	内山 誠	まず、世界規模の視点も取り入れつつ自動車を取り巻く安全と環境問題を概説し、そのポイントを理解させる。次に、そのために不可欠な、先進安全システムや各種先進電動車のシステム構成の基礎と、それらに対する評価技法を解説し理解させる。さらに、それらシステム、車両のキーとなる先進の電子デバイス、電気化学デバイス等を体系立てて紹介、解説し、その重要性と実現に向けた課題などの基礎を理解させる。最後に、それら一連の理解に立ち、どのようなアプローチが、安全と環境問題の課題を解決するに有効か考究をレポートさせ、討議させる。	修士・博士	特になし	10	2	毎週開講	4月10日(水)	前学期	小試験(未定)とレポート
19	《伊都キャンパス》 (統合新領域学府オートモティブサイエンス専攻) 自動車安全文化論	志堂寺 和則	この講義では人間科学の立場から自動車の安全性について考えるために、交通事故の実態、運転適性と交通安全教育について学習する。これまでの安全対策を把握し、将来の施策、対策への展望が自分なりに持てる ようになることが本講義の目標である。	修士・博士	特になし	10	2	後期(12月以降)集中	講義日の10日前	未定 10月頃通知予定	レポート
20	《伊都キャンパス》 (統合新領域学府オートモティブサイエンス専攻) 生産管理	目代 武史	製造業(とくに自動車産業)における生産管理の諸問題を経営学(経営戦略論や組織論)と工学(経営工学)の二つの視点から学習する。コスト、品質、納期といった生産管理の基本問題へのアプローチに加え、生産現場のマネジメントが企業の「競争力」へつながるロジックを検討していく。	修士・博士	特になし	5	2	毎週開講(前期)	4月10日(水)	前学期	レポート
21	《伊都キャンパス》 (統合新領域学府オートモティブサイエンス専攻) 企業戦略マネジメント	目代 武史	自動車産業における経営戦略の課題を、理論の学習と事例の分析により検討し、ビジネス・リーダーとしての経営センスを習得する。講義を通じて、経営戦略の標準的な理論を学習するとともに、ビジネスケースのグループ検討を通じて、理論の現実への応用や理論の限界について実践的に学んでいく。なお、講義は英語で行い、講義資料は英語版および日本語版を配布する。	修士・博士	英語による講義を理解し、グループワークに参加できる程度の語学力を有すること。	5	2	集中講義(後期)	講義日の10日前	未定 10月頃通知予定	グループワークおよびレポート
22	《大橋キャンパス》 (芸術工学部) 構法設計論	井上 朝雄 松村 秀一 腰原 幹雄 小見 康夫 石山 央樹 名取 発	建築物の構成方法について学ぶ(応用編)	学部3年以上	建築の基礎的な知識があること	特になし	2	前期集中講義 土曜日に複数回に分けて開講	2月末	未定(詳細は九州大学芸術工学部学務課教務係に確認すること)	
23	《大橋キャンパス》 (芸術工学部) ソフトウェアアーキテクチャ	高木英行	ウォーターフォールモデルを例に、ユーザー要求仕様、システム設計、ソフトウェア設計、レビュー、コーディング、単体/結合テスト等のソフトウェア開発の流れと各工程の手法とソフトウェア品質の重要性を理解する。	学部2年生以上	■プログラミングを行うわけではないが、C言語を例に解説することが多いので、「プログラミング言語」関係の授業で事前にC言語をよく履修しておくことが望ましい。 ■3人チームで演習をし、期末レポートを作成するので、途中で履修放棄する可能性のある学生は履修しないこと。	5名程度	2	後学期 月曜3限×15週	7月末	10月7日	2月上旬
24	《大橋キャンパス》 (芸術工学部) 環境構法論	井上朝雄	建築物の構成方法について学ぶ(入門編)	学部2年以上	建築に興味があること	特になし	2	後期集中講義 10:30~12:00	7月末	10月4日	2月上旬
25	《大橋キャンパス》 (芸術工学部) 建築生産	井上 朝雄 松村 秀一 遠藤 和義 秋山 哲一 浦江 真人 角田 誠	建築を生産するシステムについて学ぶ(入門編)	学部3年以上	建築の基礎的な知識があること	特になし	2	後期集中講義 土曜日に複数回に分けて開講	7月末	未定(詳細は九州大学芸術工学部学務課教務係に確認すること)	
26	《大橋キャンパス》 (芸術工学部) 知能情報学特論	高木英行	進化論的計算、ニューラルネットワーク、ファジィ推論システムの3技術を中心に、その他、知識工学と人工生命を加えた知能情報学の要素技術とその応用事例を教科書および配付資料に基づいて学ぶ。	修士1年生以上	デザイン人間科学国際コースの学生が履修した場合は英語での授業になる。その場合の履修条件は、英語での聴講能力があること。	特になし	2	前学期 月曜3限×15週	2月末	4月15日	8月上旬
27	《大橋キャンパス》 (芸術工学部) 生産システムデザイン	井上 朝雄 清家剛 安藤正雄 村上 心 西原 守 小栗 新	建築を生産するシステムについて学ぶ(応用編)	修士1年以上	建築系の大学を卒業していること	特になし	2	前期集中講義 土曜日に複数回に分けて開講	2月末	未定(詳細は九州大学芸術工学部学務課教務係に確認すること)	
28	《馬出キャンパス》 (歯学府) 細胞生物学特論	(世話教員: 森 悦秀) ※詳細は後日通知	※詳細は後日通知	大学院生	なし	-	2	集中	※詳細は後日通知	※詳細は後日通知	-
29	《馬出キャンパス》 (歯学府) 口腔ケアと先端技術	柴崎 颯一郎(ライオン歯科衛生研究所) 内山 章(ライオン(株)) 松下 健二(国立長寿医療研究センター)	※詳細は後日通知	大学院生	なし	-	2	集中	※詳細は後日通知	※詳細は後日通知	-
30	《馬出キャンパス》 (歯学府) 硬組織研究法	久木田 敏夫	※詳細は後日通知	大学院生	なし	-	1	集中	※詳細は後日通知	※詳細は後日通知	-

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	申込締切 等	授業開始 日	試験日
九州大学	31	福岡市近郊の里山を対象に、実際に歩き、見て、触れて、測り、身近な自然について考えます。プログラムを修了した時には、森林の面白さと、一方通行で与えられている情報と自ら測り・考えて得る知識とのギャップを感じることでしよう。 (http://www.forestkyushu-u.ac.jp/FSC.2013/FSCwaseda-2013-index.html) 〔開催地〕九州大学農学部附属演習林福岡演習林(福岡県粕屋郡篠栗町)	○古賀信也 大槻恭一 笠原玉青	1・2年生(学部は問いません)	山、川、牧場等での実習を厭わず進んで参加できる学生・現地集合ができる学生・保険に加入。	3名程度	2	集中	申込期限 6月14日	8/19(月) ～8/23 (金) の5日間	
	32	野外における講義・実習を通じて、人間や生物と環境との関わりについて学びます。山岳森林生態プログラムでは、宮崎演習林にて「山岳地の森林の成り立ちや構造」をテーマとします。 (http://www.forestkyushu-u.ac.jp/FSC.2013/FSCwaseda-2013-index.html) 〔開催地〕九州大学農学部附属演習林宮崎演習林(宮崎県東臼杵郡椎葉村)	○榎木 勉 大賀祥治 内海泰弘 菱拓雄			4名以内			申込期限 6月14日	8/19(月) ～8/23 (金) の5日間	
	33	野外における講義・実習を通じて、人間や生物と環境との関わりについて学びます。北海道プログラムでは、北海道演習林から雌阿寒岳において「十勝の森林景観と土地利用」をテーマとします。 (http://www.forestkyushu-u.ac.jp/FSC.2013/FSCwaseda-2013-index.html) 〔開催地〕九州大学農学部附属演習林北海道演習林(北海道足寄郡足寄町)	○久米 篤 田代直明 菱 拓雄			5名以内			申込期限 6月14日	9/9日(月) ～9/14日 (土) の6日間	なし
	34	野外における講義・実習を通じて、人間や生物と環境との関わりについて学びます。屋久島プログラムでは、屋久島にて「屋久島の多様な自然と人間活動」をテーマとします。 (http://www.forestkyushu-u.ac.jp/FSC.2013/FSCwaseda-2013-index.html) 〔開催地〕屋久島(鹿児島県熊毛郡屋久島町)	○吉田茂二郎			2名以内			申込期限 6月14日	9/9(月) ～9/12 (木) の4日間	
	35	野外における講義・実習を通じて、人間や生物と環境との関わりについて学びます。アควアフィールドプログラムでは、津屋崎水産実験所にて「人間活動と海洋環境の繋がり」をテーマとします。 (http://www.forestkyushu-u.ac.jp/FSC.2013/FSCwaseda-2013-index.html) 〔開催地〕九州大学大学院生物資源環境科学府付属水産実験所(福岡県福津市津屋崎)	○及川 信 鬼倉徳雄 吉国通庸			2名			申込期限 6月14日	8/19(月) ～8/22 (木) の4日間	
	36	野外における講義・実習を通じて、人間や生物と環境との関わりについて学びます。体験的家畜生産学入門プログラムでは、久住高原農場にて「環境保全型で安全な牛肉の生産システム」をテーマとします。 (http://www.forestkyushu-u.ac.jp/FSC.2013/FSCwaseda-2013-index.html) 〔開催地〕九州大学農学部附属農場高原農業実験実習場(大分県竹田市久住町)	○後藤貴文			5名以内			申込期限 6月14日	9/17(火) ～9/20 (金) の4日間(予定)	
九州大学	37	本講座では、作物(イネおよび園芸作物)や家畜(牛やニワトリ)などを対象に農業生産の実際および食品加工を体験すると共に、その基盤となる理論、農業生産と環境(保全)との関係や食物の安全性などについて学習する。9月上旬に農学部附属農場(福岡県糟屋郡粕屋町および篠栗町)において、2泊3日の宿泊集中実習・講義を実施する。	望月俊宏 尾崎行生 中野 豊 酒井かおり	1, 2年生	特になし	10名	2	夏期集中	別途掲示 物にて案内	(予定) 8月26日～ 28日 (2泊3日)	試験は行 わない。経 費として 4,000円 (宿泊費お よび食費) が必要。
	38	Matthew Augustine講師 本授業では近現代、とりわけ第二次世界大戦以降の日本と東アジアの歴史において、以下のテーマに焦点を当てて: (1)戦後東アジアのなかの日本史(2)戦争と記憶(3)米軍占領と基地(4)日本の国際史 各テーマの歴史的的分析を試みることにより、戦後日本と東アジアの関連を検討する。		修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	39	吉田昌彦 教授 前近代から近代への移行を検討する際に重要なテーマになるNationもしくはNation Stateの形成についてアンダーソンやスミスなどの基本的文献と日本における研究文献を読み、今日のNationalism論の諸動向を把握することとする。		修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	40	吉岡 斉 教授 近現代日本の科学技術と社会に関連する文獻(日本語、英語)を素和として、発表と討論を行う。原則として1冊のテキストを学生1人が担当し、1冊あたり2～3回程度のセッションを実施する。学生全員が毎学期発表できるようにする。取り上げるテキストについては、学生の多様な興味を尊重しつつ、学生と教員が協議して決める。目標は、近現代日本の科学技術の社会史という領域における基礎知識の習得と、この領域で語られる言説を批判的に吟味する能力を養うことに置く。		修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	41	杉山あかし 准教授 情報社会論に関する文獻(主に英語)を取り上げ、講読と議論を行う。何を取り上げるかについては学生と協議して決める。1時間あたり学術論文1本程度の分量を読み進むこととする。この分野の学術論文を読みこなすための能力と知識を修得することを目標とする。		修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	42	直野章子 准教授 現代社会文化理論(言語分析、記憶論、ポストコロニアル理論、フェミニズム、イデオロギー論など)を参照しつつ、「差異」「不平等」「暴力」などをキーワードにしながら、現代社会について考察する。セミナーでは、日本語・英語の学術書籍や論文を読み込みながら、ディスカッションしていく。		修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	43	波瀧 剛 准教授 近年の文学理論の動向をふまえて、「越境」という視点から、近代文学のテクニカル読解を試みる。具体的な文獻に関しては学期のはじめに決める。 学生各自が論文作成の基礎となる方法や概念、執筆の手がかりとなる視点を得る機会とする。		修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	44	松本常彦 教授 正宗白鳥「文壇五十年」注釈的読解。 一回講義につき、「文壇五十年」の1章を対象として注釈を施すことで問題点を検討する。毎週の講義で1章を再読し、ほぼ2年で前章の注釈を施す。文学史記述を批判的に再読するための注釈と資料操作野能力を養う。		修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	45	西野常夫 准教授 題目「文学研究動向研究 学会誌(『日本近代文学』比較文学)その他・主な使用言語)掲載の諸論文を読む。		修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	46	施 光恒 准教授 前期・後期ともに、リベラリズム(自由と人権、平等、民主主義など)、あるいは、ナショナリズム(国民国家やナショナル・アイデンティティの形成などの現象やそれらを取り巻く諸理念)に関する政治理論的・哲学的的論文を読み進めていく。 前期は日本語の文獻を、後期は英語の文獻を、主に用いる。政治理論の基本概念を使った議論や考察ができるようになることが目標である。		修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態	申込締切日	授業開始日	試験日
九州大学	47	清水晴久 教授	日本政治思想史の重要文献を読みながら、政治思想の諸問題について考え、論じあう。何を読むかは、参加者の関心の関心に応じて決める。日本の政治と思想の歴史を理解すること、文献を読んで考える力、論じる力をつけることを目標とする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	48	阿部康久 准教授	主に経済地理学分野を中心に、受講者にとっての母語以外の言語(ただし、日本語、英語、中国語のうちどれか)で書かれた文献を選び、内容を紹介してもらい、講読する文献は、受講者の希望に合わせるが、もし希望がない場合は、NEIL M. Coe, Philip F. Kelly and Henry W.C. Yeung: 2007. ECONOMIC GEOGRAPHY. を輪読することも考えている。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
九州大学	49	山下 潤 准教授	地域構造に留意し、都市の持続可能性に着目し、各種の都市構造・政策や都市解析や都市政策策定支援ツールと関する文献を用いて、演習形式で授業をすすめる。授業を通じて、都市の現状と都市政策・計画理論ならびに都市解析・都市政策支援ツールに関する理解を深めることを目的とする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	50	高野信治 教授	近世日本の国制と社会構造を、地域を射程にいれながらトータルに検討することを目標とする。具体的な方向・内容は参加者と話し合いながら決めてゆきたいが、基本的には話題性のある問題提起的な論文や史料などを、方向性(テーマ)にしたがって選択し講読、議論を進めることになる。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
九州大学	51	三隅一平 教授	各種の統計資料、制度・政策資料、メディア記事、既存の社会調査資料などの二次資料を活用して、二次分析の方法論を展開しながら、地域の特性と変動過程を比較分析する。Ⅰ・Ⅲはは資料探索と分析視点を中心に議論し、Ⅱ・Ⅳでは分析法と実際の分析を中心に進める。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	52	田中良之 教授	考古資料として人骨を用いるための基礎的知識と方法を講義・演習形式で習得させる。具体的な人骨の調査事例を取り上げながら、そこからいかにして考古学的・歴史的情報を引き出すのかを毎回議論する。それによって、人骨を考古資料として活用する理論的背景と方法の基礎的理解を理解し、骨考古学の文献を批判的に読解できるようにする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
九州大学	53	溝口孝司 教授	考古資料を遺した過去の人々の社会、それを分析・研究し、それについてコミュニケーションする今日の我々の社会。これらに「社会」として、個人々の思考・行為と「社会」との関係性を、考古学という領域においていかに探求可能か?本ゼミでは、このことについて、オリジナル講義とディスカッションを通じて深め、身につけてゆく。講義・ディスカッションは基本的に英語でおこなうが、必要な場合には、日本語で補足し、理解の助けとする場合もある。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	54	佐藤康也 准教授	文化・行動地理学、文化生態学、行動生態学、生態人類学を中心とする諸分野の文献を題材とし、人間社会の動態を環境適応との関係において把握する方法を学ぶ。具体的なテーマとしては、農業社会の食糧獲得活動、集落動態、人口生態学、親族と婚姻、攻撃性と戦い、性差、文化の伝達、遊動と定住化などの問題を順次とりあげ、人間行動より基層的な部分から理解することをめざす。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
九州大学	55	瀬口典子 准教授	人類の多様性と進化との関連を学ぶコースで、人類の生物学的多様性とその多様性を生み出した要因となる様々な進化的メカニズムについて重点的に学ぶ。人類の遺伝子レベルの多様性、骨・歯の形態の多様性、適応と環境・文化・社会・生活との関連性などを学び、考察する。また、過去に構築された「生物学的人類概念」の無効性や、アメリカの生物人類学が現在直面している問題など日本の状況と照らし合わせながら討論する。発表と討論は基本的に英語で行うが、日本語でも補足的に行う。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	56	岩永省三 教授	階級社会形成に関わる以下の諸問題①～③に関わる重要文献を精読する。 ①理論的問題 ②日本における階級社会形成過程の具体的様相 ③古代都市論	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
九州大学	57	中野 等 教授	歴史学研究の基本である史料操作を実践する。地域に遺る歴史資料(くすし)で書かれた原史料や資料集などのかたちで活用されたものを対象として具体的な分析をおこない、史料分析のスキルを身につけていくと同時に日本の近世社会の特質について究明していく。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	58	服部英雄 教授	歴史はさまざまな資料(史料)から構成される。文献、考古史料、地名、気象、地形、など人間が遺したのや、歴史状況など、あらゆるものが手掛かりになる。その環々を吟味し、批判して史料として生かしていく。その方法論とともに学びたい。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
九州大学	59	楠見淳子 講師	分子系統学、分子進化学、分子集団遺伝学はDNA等の分子に蓄積された情報の解析から生物の進化、多様化してきた筋道を理解する学問である。これらの分野の基礎的知識、分子データに基づく系統樹推定や統計的手法を用いた遺伝的変異、多型データの解析法の習得を目標とし、実習を交えて講義を進める。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	60	三島美佐子 准教授	種生物学は、生物に蓄積された様々な生物学的バックグラウンドの解析から、生物が分化・多様化してきた筋道を理解する学問である。ここでは、その解析に必要な種生物学の基礎、地理的分析手法の習得を目標とし、実習を交えて講義を進める。授業をとおして、プレゼンテーションおよび科学コミュニケーションのスキルアップも図る。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
九州大学	61	小山内康人 教授	各種鉱物およびそれらから構成される岩石のもつ様々な自然情報、正確・精密に収集・解析する能力を習得することを目的とする。前期には、記載分類法・情報収集法・先端的機器分析法などについて講義し、文献紹介等で最新の知見を習得する。後期には、野外調査・分析試料作成・機器分析・データ解析を実習する。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	62	館 卓司 講師	節足動物は地球上のほとんどの場所で見られ、形態的にも生態的にも多様に富んでいるグループの一つである。特に、ほとんどの昆虫類は陸上生活に適応している。この授業では、昆虫類を中心に節足動物の分類・系統に関して理解することを目的とする。形態の基本構造、相同性の決定や塩基配列のアライメントなど系統推定に関する基本的知識や分子進化に関する方法論を学習する。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	1・Ⅲは4月19日 Ⅱ・Ⅳは10月11日	1・Ⅲは4月12日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による

開講 大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	申込締切 等	授業開始 日	試験日
九州 大学	63	堀井伸浩 准教授	前期:授業の前半において産業経済論の概要について教員が講義を行い、それを踏まえて、後半においては履修者がそれぞれ個別具体的な産業を選択し、産業経済論、特に産業組織論の分析枠組みに沿ってその産業に関する分析を行う演習方式で授業を進める。演習で分析するのは中国の産業であるが、日本を始めとする外国との比較を通じて客観的な分析を行う。講義を聞くだけでなく、自ら資料を渉猟し、データをまとめてプレゼンテーションする必要があるため、積極的な授業への参加態度を求める。 後期:世界各国の産業構造を規定する諸要因、また中国の経済発展に伴う産業構造の変容について、文献を精読して理解を進める。具体的には、①Paul Gregory and Robert Stuart [2004] Comparative Economic Systems in the Twenty-first Century, Boston: Houghton Mifflin Company、②若嶋一郎・鈴木拓 [2010] 『比較経済分析—市場経済化と国家の役割』ミネルヴァ書房、③中東和津次 [2010] 『体制移行の政治経済学—なぜ社会主義国は資本主義に向かおうと脱走するのか』名古屋大学出版会などの文献を想定している。	修士 学生	授業担当教員の内訳及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月19日 II・IVは10月11日	I・IIIは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	64	北澤 満 准教授	近現代日本の産業史・経済史に関する基礎的な文献を精読する。当該期における経済構造、産業構造全般の理解を目標とする。また、史料収集、およびその解釈についても、適宜実習を行っていく予定である。	修士 学生	授業担当教員の内訳及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月19日 II・IVは10月11日	I・IIIは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	65	辻田淳一郎 准教授	日本列島の弥生～古墳時代社会を理解する視点を獲得することを目的として、欧米の考古学・人類学の研究を検討する。同時に、それを通じて考古学を含めた人文・社会科学全般における同時代的学問状況と問題意識についても理解を深める。	修士 学生	授業担当教員の内訳及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月19日 II・IVは10月11日	I・IIIは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	66	宮本一夫 教授	2010年度に出版された中国語、韓国語、英語、ロシア語などの外国学術雑誌や書籍を読み、その内容を紹介するとともに、学史的な位置づけを行う。このことにより、その専門分野における研究上の問題設定を可能としよう。対象分野は東アジアの先史から古代にかけてである。	修士 学生	授業担当教員の内訳及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月19日 II・IVは10月11日	I・IIIは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	67	宮地英敏 准教授	戦後日本の高度経済成長期を対象として、生産現場の様子、都市や農村の変化、景気循環、財政金融政策、産業政策、通貨危機と石油危機による高度成長の終焉などに関してテキストを読み進めていく予定である。	修士 学生	授業担当教員の内訳及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月19日 II・IVは10月11日	I・IIIは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	68	三輪宗弘 教授	①先行研究(経営史、戦時経済)を批判的に読み、一次資料から如何に論文を組み立てているのかという点を学び修得する。問題の所在をつかみ、自己の研究の問題点を明確にする。 ②経済史でよく使われるデータの分析に優れた論文を取り上げ、その手法を学習する。 ③論文を書く能力を高めるために、小論文の添削指導(400×5枚2回全員提出)を行なう。	修士 学生	授業担当教員の内訳及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月19日 II・IVは10月11日	I・IIIは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	69	志水俊広 准教授	第二言語習得研究に関する文献を取り上げ、講読と議論を行う。第二言語習得研究の立場から見た日本語教育を主に対象とするが、必ずしも日本語教育に限定せず、この分野の研究が進んでいる英語教育・英語学習についても適宜触れたい。海外で出版された文献も活用できるように、英語の読解力があることが望ましい。	修士 学生	授業担当教員の内訳及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月19日 II・IVは10月11日	I・IIIは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	70	松村瑞子 教授	日本語対照言語学(談話分析、語用論、社会言語学、ジェンダー論、認知言語学)の何れかに焦点を絞って、対照言語学の方法論を学んでいく。	修士 学生	授業担当教員の内訳及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月19日 II・IVは10月11日	I・IIIは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	71	山村ひろみ 教授	日本語の諸現象を観察しながら、日本語の言語学的見方とは何か、を考えていきたいと思います。授業では、事前に用意された論文を批判的に読む訓練をすると同時に、レポート・論文作成時の基本的事項、発表時に必要なハンドアウト等の作成の仕方などを確認していこうと思います。	修士 学生	授業担当教員の内訳及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月19日 II・IVは10月11日	I・IIIは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	72	西山 猛 准教授	日本語と中国語の対照研究分野の論文を講読し、討論する。講読する論文での使用言語は日本語及び中国語。討論で使用する言語は日本語とする。	修士 学生	授業担当教員の内訳及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月19日 II・IVは10月11日	I・IIIは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
73	松永典子 教授	異文化間の接触、対人関係の構築に関わる諸問題について歴史的観点、教育の現場の議論も踏まえつつ検討する。 文献(研究論文)を単にまとめるだけでなく、関係する資料・先行研究を調べ、精査していくことにより、当該分野における、その研究の意義・研究の位置づけ・研究上の問題点等について指摘できるようになることを目標とする。	修士 学生	授業担当教員の内訳及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月19日 II・IVは10月11日	I・IIIは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による	
74	長谷千代子 講師	現代中国文化について、前期は「宗教」、後期は「民族」の観点から講義する。漢族文化や社会主義の政治文化といった焦点化されやすいテーマとは違って異なる地点に立ち、中国文化をより複眼的に捉えることを試みる。	修士 学生	授業担当教員の内訳及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月19日 II・IVは10月11日	I・IIIは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による	
75	東 英寿 教授	中国古典文学に関係する文献(中国語)を取り上げ、講読と議論を行う。1回の授業で学術誌論文1本程度の分量を読み進むこととしたい。この分野の学術論文を読みこなすための能力と知識を修得することを目標とする。	修士 学生	授業担当教員の内訳及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月19日 II・IVは10月11日	I・IIIは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による	
76	益尾知佐子 准教授	戦後から現在に至る東アジア国際関係について、主に政治・外交・安全保障といった側面から考察する。 授業にあたっては、毎回1,2本の論文(英語・日本語、場合によって中国語)を取り上げて担当者に報告をしてもらい、すべての参加者の間で議論を行う。また必要に応じて教員が問題の背景を説明する。	修士 学生	授業担当教員の内訳及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月19日 II・IVは10月11日	I・IIIは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による	
77	太田好信 教授	アメリカ合衆国社会におけるリベラリズムの主流は、自明のことが、人種というカテゴリーから距離をとる。また、人種主義の消滅と法的正義や公共政治の場面で人種への言及をタブー視する傾向は、人種を権力の効果として議論することを困難にする。本演習では、マルコムXに関する著作(64年刊行のマルコムX[ヘイリウ]の著作、ならびに2011年刊行のマルコムXの著作)を比較する作業を中心に、アメリカ合衆国の国家形成の中心にある人種という概念とそれに対する関心を民主化として位置づけ、アメリカ合衆国における国家と人種との関係の歴史を検討する。	修士 学生	授業担当教員の内訳及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月19日 II・IVは10月11日	I・IIIは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による	

開講 大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	申込締切 等	授業開始 日	試験日
九州 大学	78	松井康浩 教授	国際社会を理解分析するための基本理論を学び、かつ、国際関係理論の近年の動向を把握することを目標として、当該分野にかかわる各種の著作や論文を読み進める。前期は、基礎的な国際関係理論の理解に努め、後期は、最新の理論動向を中心に検討する。	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	79	山尾 大 講師	中東政治の歴史、および中東政治学の必読文献を中心に輪読すること、中東政治の基本的な構造と議論を学ぶことを目的とする。また、中東政治分析において重要なファクターとなるイスラム主義運動についても、分析を行う。	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	80	嶋田洋一郎 教授	「民謡」(Volkslied)というドイツ語を初めて使用したとされるドイツの思想家ヘルダーを扱う。ただしヘルダーは Volkslied を Popular Song のドイツ語訳として考えており、したがってヘルダーの考える「民謡」はかなり幅の広いものである。本演習ではこの「民謡」に関するヘルダーの著作を、近代ドイツの国民意識の発生との関連において読むことにしたい。	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	81	古谷嘉章 教授	英語(あるいは日本語)の人類学関係の著作・論文を読むことにより、人類学的な思考プロセスを体験する。本年度前期は、多文化主義とメディアという副題のついたUnthinking Eurocentrism (Ella Shohat and Robert Stam, Routledge, 1994)を読むことからはじめて、余裕があれば、より新しい関連論文を読みます。テキストは各自事前に手配しておいてください。開講日時等の詳細は、古谷演習のWebsite(http://www.scs.kyushu-u.ac.jp/~furyu/furyuzemi.html)を参照してください。	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	82	鎌本政彦 教授	2011年3月11日に起こった東日本大震災は、思想に大きな課題を突きつけました。そこで今回は、本震災についてさまざまな論者が発したコメントや議論を読み直し、思想の取り組むべき課題について考えます。基本的に、前期は災害に関する思想的課題の洗い出しの作業を中心とし、後期はその課題を考えるためのテキストを読む計画です。毎回、予習調査ノートの提出と、学期末にレポート提出を義務とします。なお、この授業では、災害を考えるにあたって、近代の思想的遺産を共通の前提とします。そのため、近代思想史についての基本的な知識の学習が求められます。	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	83	新島龍美 准教授	道徳的実在論に關係する文献を取り上げ、講読と議論を行なう。題材については学生と相談して決定する。哲学の学術論文を読みこなすための能力と知識の修得を目指す。	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	84	阿部芳久 教授	群衆の構造と機能について学習する。群衆や個人レベルの生態学ならびに群衆の構成要素を認識するため系統分類学に関連した文献を読むことにより授業を進め、これら環境関連の学問への理解を深めることが目標である。	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	85	荒谷邦雄 教授	種レベルの生物多様性に関して、1)実態把握(分類学、系統学)、2)創出機構の解明(進化学、生物地理学)、3)維持機構の解明(行動学、生態学)、4)保全(保全生物学)の4つの観点にたった総合的なアプローチを試み、環境と生物種の関わりについて理解を深める。具体的な題材として主に昆虫を例に講義を進める。	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	86	桑原義博 准教授	地球表面で起こっている「鉱物-水-大気-生命相互作用」について、それらに関する英文テキスト、論文を輪読あるいは発表し、「鉱物-水-大気-生命相互作用」に関する基礎知識を深めるとともに、英文の読解と表現、およびプレゼンテーション能力を身につける。	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	87	狩野彰宏 教授	地球史を通じた生物進化と地球環境の関連性を理解し、研究課題の立案・遂行能力を身につけるために、英語の論文や教科書を輪読する。また、実践的な知識を習得するための野外実習を行う。	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	88	石田清隆 准教授	I 岩石圏は主に珪素と酸素の四面体を骨格とした結晶(珪酸塩鉱物)からなるので、まず、結晶学の基礎を講義する。内容は、結晶の対称性、点群、空間群、逆格子、X線、電子線、中性子線回折法による結晶構造解析の原理。 II 主要造岩鉱物の結晶構造は地球深部の温度圧力条件に応じて変化する。カンラン石、角閃石、雲母等を取り上げてそれらの結晶化学を講義する。 III 鉱物合成法と結晶構造解析法の講義と実験。 IV 研究テーマに沿った論文紹介や、ゼミ形式による発表および討論。	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	89	大野正夫 准教授	地球の環境(地磁気・地球回転等も含む)の変動に関連する、地球物理学、地球化学、もしくは天文学の分野の講義および文献(主に英文)の講読。内容については最初の講義の際に相談する。この分野の学術論文を読みこなすための能力と知識を修得することを目標とする。	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	90	北 逸郎 教授	人間を取り巻く環境物質のグローバルな分布やその環境問題を、地球化学の知識に基づき、大気圏を含めた地球内の元素循環の一端として捉えることの出来る研究者と科学技術者の養成を目的として、最近のトピックスを含めた次の授業と演習等を行う。 1) 地球化学や環境化学に基づく環境物質に関する講義 2) 授業内容に關係した演習や小テスト	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	91	岡崎晴輝 教授	M.Gallagher and P. Mitchell, eds., The Politics of Electoral Systems, Oxford University Pressを読む(計662頁)	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	92	大河原伸夫 教授	政治学の重要な英語文献を取り上げ、翻訳を行いつつ内容についてのディスカッションを行う。(毎回、各自が担当部分を翻訳する)向を取り上げるかについては、受講者と協議して決める。この分野の学術論文を読みこなすための能力と知識を修得することを目標とする。	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	93	百村 彦彦 准教授	森林とその周辺域における生態系保全、自然資源管理について、講義、文献の講読及び討論を行う。特にアジアモンスーン地域を対象とする。森林環境保全学に関する高度な知識を習得し、またこの分野における学術論文を読みこなせる能力を養うことを目標とする。	修士 学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態	申込締切等	授業開始日	試験日
九州大学	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 地下水環境保全学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	黒澤 靖 教授	前期は、地下水の水質汚染(主にヒ素汚染、無機能窒素による汚染)や土壌保全に関して講義を行い、後期は地下水環境保全学に関する文献(主に英語)を取り上げ、講読と議論を行う。地下水環境保全学に関する高度な知識を習得し、かつこの分野の学術論文が読みこなせるようになることを目標とする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	集中・土日開講等 未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 社会言語論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	小谷耕二 教授	アメリカ文学の作品を原文で読むことにより、語学力の向上をはかるとともに、文学テクニクを多角的な読解力を行なう。同時に、社会と言語の関わりを多面的に考察する。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 言語情報処理論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	李 相穆 准教授	言語研究のための言語データの収集及び分析方法を習得することを目標とする。具体的にはアンケート・ウェブページ・ウェブフォームからの言語データ収集、分析、統計処理などの手法について講義を行う。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 比較言語文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	高橋 勲 教授	「野性の文化」をテーマとして、ヘンリー・ソロローやゲーリー・スナイダーのテキストを輪読する。人類学的なアプローチとしてはなく、より文学的に、自然と文化の根源的な関係について考える。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 言語コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	井上奈良彦 教授	言語とコミュニケーションに関連する文献を読み研究を概観する。また、スピーチやディベートの実践練習や指導方法の検討を行う場合もある。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) アジア言語文化論(現代中国言語文化論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	秋吉 収 准教授	現代中国の文献を精読することを通して、中国近現代における歴史や文学の諸問題について考察する。日本と中国を双方から照射するために、教材として、日中比較文学、魯迅等に関する文献を取り上げていく。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) アジア言語文化論(東アジア比較言語文化論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	松原孝俊 教授	(1) 植民地朝鮮半島研究: 崔承喜十植民地文化空間+消費文化+メディアなどを多様な観点から論じます。 (2) An introduction to some of the current issues in modern Korean history through selected readings. (3) 国内外で発表された語彙論を取り扱った各種論文を説明しながら、似ていながら異なる日韓両言語についての対照研究手法を学ぶ。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 英米言語文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	太田一昭 教授	カズオ・イングロのThe Remains of the Dayを読みます。イギリスの貴族に仕えるバトラー(執事)を描いた、フッカー賞受賞作品。これを原典で味読します。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) ヨーロッパ言語文化論(フランス言語文化論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	阿尾安泰 教授	フランスの第2次世界大戦後の思想、特に構造主義以降の思想に関する文献を取り上げ、講読と議論を行う。現代思考がいかなる条件のもとに成立したのか、そしてそれがどのような方向を志向しているのか考えていく。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) ヨーロッパ言語文化論(ドイツ言語文化論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	福元圭太 教授	主に世紀転換期(19世紀から20世紀への)から第一次世界大戦、両戦間期にいたるまでのドイツ語圏における思想・文学、特にトーマス・マンのテクニクから、いくつかの重要なテクニクを取り上げ、講読と議論を行う。合理性と非合理性がせめぎ合う様相を観察し、ドイツ的なものの一面を照射してみたい。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月19日 II・IVは10月11日	I・Ⅲは4月12日 II・IVは10月1日	各教員による

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	申込締切 等	授業開始 日	試験日
104	英語史B	久屋孝夫	アメリカ英語の成長とグローバル英語の隆盛を欧米近現代史と近代英語の辿った足跡を通して学ぶ。イギリスが16世紀末以降、欧州における覇権争いに勝利していく中で、獲得されていった大英帝国の植民地とされた世界の多くの国々で支配者の言語として、また必要悪としての公用語として、多様な種類の英語が誕生する過程に焦点を当てる。また英国自身が、市民革命、産業革命、社会格差を経て近代化していく中で、さまざまな新たな表現を生み、変化していくようを観察する。	3年次以上	特になし	10名	2	週1回 前期 月曜1時限目 (9:00~10:30) 90分×15回	4月2日	4月8日	複数回の課題提出あり、小テスト実施(7月22日)
105	英語学研究A	久屋孝夫	regional dialects(地域によって異なる英語の姿); style/mode(対人関係や場面によって異なる英語の姿); sexist language(性差別と言語のつながり); words and representation(ことばは現実をどれだけ中立的に描写できるか)など社会言語学を中心とするトピックを扱う。	3年次以上	特になし	10名	2	週1回 前期 月曜3時限目 (13:00~14:30) 90分×15回	4月2日	4月8日	複数回の課題提出あり、小テスト実施(7月22日)
106	英語学概論A	久屋孝夫	英語をそれが使用される言語外の諸要素(社会、文化、歴史)との関連で考察し、情報交換役割以外の幅広い言語の機能についての基礎知識を得る。 【授業の概要】 トピックを3領域にしぼり、それぞれのトピックに関して5回ずつ講義していく。それぞれのトピックについて課題を提出する。 【授業計画/各回ごとの授業内容】 【第1回~第5回】 (1)言葉遊び(ルイス・キャロルのAlice's Adventure in Wonderland 不思議の国のアリス) 【第6回~第10回】 (2)英語語彙の特色(語のルーツ探索、特定領域の語彙ネットワークの通時的体系) 【第11回~15回】 (3)婉曲語法(euphemisms)、言い換え(political correctness)、差別と言語(racism, sexism)	2年次以上	特になし	5名	2	週1回 前期 月曜1時限目 (9:00~10:30) 90分×15回	4月2日	4月9日	複数回の課題提出あり、小テスト実施(7月23日)
107	情報処理応用IE(51)	田中謙一郎	RやSPSSを用いてデータ分析の基本を説明し、情報処理センターで実習を行う。	3年次以上	コンピューターの基本操作ができること。	10名程度	2	週1回 前期 金曜4時限目 (14:40~16:10) 90分×15回	4月2日	4月12日	試験なし 実習課題による評価
108	フランス食文化研究	武末祐子	フランス料理は、2010年にユネスコ世界遺産の無形文化財に登録された。食の芸術(L'art du bien manger et du bien boire)であるフランス料理について今と昔、土地環境と社会的洗練といった視点を意識しながら学ぶ。農業国であり、美食の国であるフランスは、食材の豊かさや食卓の美を併せ持つ。人はなぜ、美味しく食べようとするのか、なぜ「より」美味しく食べようとするのか、食文化の歴史と現在を理解しながら、フランスの食文化の豊かさや食の知識を共有していく。	2年次以上	特になし	10名程度	2	週1回 後期 金曜2時限目 (10:40~12:10) 90分×15回	4月2日	9月20日	試験なし レポートによる評価
109	西洋文学A(1)	武末祐子	「イザッ! 出発: 移動する人物たち」 我々は、一年のうち、あるいは一生のうち、何回くらい、どのくらいの距離、移動するのだろうか。交通事情もよくなり、国際的交流関係も進んだ現代に生きている我々のうち、生まれた町を一度も離れたことがないという人は少ないであろう。なぜ隣町に行くのか、なぜ小旅行をでかけるのか、なぜ外国へ行くことなのか。 西洋の文学や芸術作品に登場する人物たちは、どのような移動をしたのか。本を読むとき、主人公が何者であり、何を考え、何を話すか、誰と関係しているのか読者はまず知るとうとする。しかし、主人公がどこに住んでいるか、どこへ行ったかなど質問されるとよく思い出せないことがある。ところが、人物たちがどこからどこへ行き、なぜ移動するのかは重要な意味をもつ。戻ってくる人物たち、戻ってこない人物たちを、ヨーロッパ、特にフランス、イタリア、イギリスなどの文学と芸術において考察する。	1年次以上	特になし	10名程度	2	週1回 前期 木曜2時限目 (11:10~12:40) 90分×15回	4月2日	4月11日	試験なし レポートによる評価
110	フランス文学研究II	武末祐子	「建築・遺跡・遺産—我々の生活において、建築物というものはほど目を引かない。そこに在るだけであり、その中で生活し、通り過ぎていくだけのことが多い。では建築物は人間の社会生活の舞台背景に過ぎないのだろうか。と、はいえ、人間の一生に比べると、建築物の一生はとにかく長い。建築、破壊、放棄の対象となる建物—人はいったい何を託しているのか。 ヨーロッパの文学において、あるいは芸術において、建築はあまり取り上げられない。特に建築についても何を指すのかも判然としない。ひとつの建物、建物の集合群としての都市、崩壊し廃墟となる建物など、様々な形態や在り方が考えられよう。西洋の文学者や芸術家は、教会、城、宮殿、都市などを作るく石—に対してどのような考え方をもちているのか。本授業では、フランス、イタリア、スペインも含め、小説、建築、絵画の領域を横断して多視点的に「建てる」「朽ちる」について考察していく。	3年次以上	特になし	10名程度	2	週1回 後期 火曜2時限目 (11:10~12:40) 90分×15回	4月2日	9月24日	試験なし レポートによる評価
111	心理学III(5)	中村奈良江	心理学IIでは、発達によってどのように変化して行くのか、個人差の問題や置かれている状況によってどうかわるのか、集団の場合にはどのようになるのか、といった問題を取り上げる。これらの知識を身につけて実生活の中で応用できる事を到達目標としている。各授業の中では、それぞれのテーマについて概説するとともに簡単な実験や調査を入れながら、心理学の知見を確認する。	1年次以上	なし	10名	2	週1回 後期 水曜1時限目 (9:00~10:30) 90分×15回	4月2日	4月10日	成績は授業期間中に行われる基本的な語彙知識を問う3回の各領域テスト(各20点満点)、まために計行われる発展課題テスト(30点満点)提出課題の成績(10点)による。
112	心理学研究法各論I	中村奈良江	この講義では、実験を行うことによって心理的な事象を調査する研究のための基本的な方法論を獲得することを目的としている。講義では、様々な実験方法について概説を行い、その実験例を示すとともに、各自で簡単な実験例を考えてみる。	2年次以上	なし	10名	2	週1回 前期 水曜2時限目 (11:10~12:40)	4月2日	4月10日	成績は、毎回の授業への参加、小テストの結果、課題の提出、討論などの参加等での総合的に評価する。
113	認知心理学II	中村奈良江	記憶領域についての詳細な実験や理論、モデルについて学ぶ。さらに言語領域における実験や、理論について詳しく学習するとともに、目撃者の記憶や、展望記憶といった日常時の記憶についても学ぶ。さらに、これらの知見に関する脳科学からのアプローチについての学習を行う。授業の中では詳しい実験についての説明と共に理解を進めて行く。	2年次以上	心理学または認知心理学の基礎を学んでおくこと。	10名	2	週1回 後期 火曜3時限目 (13:30~15:00)	4月2日	9月24日	成績は、確認テスト、レポート、討論などの参加等での総合的に評価する。

開講 大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態	申込締切 等	授業開始 日	試験日	
								集中・土日開講等				
中村学 園大学	114	音楽の世界	福田 伸光	講義には毎回1つのテーマを設定する。授業は芸術の香り豊かな題材を用いて、作曲家のプロフィール、作品の生まれた背景、エピソード等について授業担当者のピアノ演奏を交えながら、平易に展開される。	1年次以上	特になし	若干名	2	前学期 月曜1時限 (9:00~10:30) 90分×15回	4月2日	4月8日	H25.7.30~ H25.8.6 ※授業中 に実施の 場合もあり
	115	現代社会と教育	田村 知子	1. 現代における家庭や地域の変容の状況を理解し、それが子どもに与える影響について考察できる。 2. 現代における教育課題の内容および背景と、それらへの対応の状況を理解し、考察することができる。 3. 我が国における教育課題や学校教育の変遷を踏まえて、現在進行中の教育改革について理解し、考察することができる。	1年次以上	特になし	若干名	2	前学期 月曜1時限 (9:00~10:30) 90分×15回	4月2日	4月8日	H25.7.30~ H25.8.6 ※授業中 に実施の 場合もあり
	116	食の科学	林 辰美	1. 食べ物の持つ機能の重要性とたんぱく質、脂質、炭水化物の消化・吸収の過程を理解する。 2. 生理機能の保持に必要なビタミンとミネラルの働きと欠乏症・過剰症などを理解する。 3. 食品に含まれるさまざまな成分の特性を知る。 4. 食味(五味:酸・甘・辛・苦・鹹)の概念、食物の味について学習する。 5. 生活習慣病、メタボリックシンドロームの予防と食生活について理解する。 6. 各自に見合った栄養の目標(食事摂取基準)と食事バランスガイドの活用を理解する。 7. ライフサイクルと食生活について具体的な食事を通して食品の選択能力を身につける。 8. 食の重要性を理解する。	1年次以上	特になし	若干名	2	前学期 水曜1時限 (9:00~10:30) 90分×15回	4月2日	4月10日	H25.7.30~ H25.8.6 ※授業中 に実施の 場合もあり
	117	演劇の世界	岩井 眞實	前半は、六月博多座大歌舞伎を鑑賞することが中心課題である。百分は一見に如かず。実際に伝統演劇にふれることは、人生でまたとない経験になるであろう。歌舞伎の鑑賞をよみゆりあるものにするために、演目を解説し、その構造と技法について学ぶ。後半は、日本の現代演劇の代表作を題材とする。現代演劇のセリフのやりとりには、言葉とくさによるコミュニケーションの技法が集約されている。演劇は世界を映す鏡であるから、演劇をまなぶことは世界のありようを学ぶことにつながる。 1. 伝統演劇とはどういうものか、その全体像を把握する。 2. 伝統演劇とりわけ歌舞伎の歴史について学ぶ。 3. 六月博多座大歌舞伎の演目について事前学習した上で実際に鑑賞する。演目は現時点で未定。 4. 明治以降の歌舞伎から新劇、現代演劇への流れについて学ぶ。 5. 現代演劇の代表作をテキストと映像によって研究する。 6. 演じるという行為を通して、コミュニケーションとは何かについて考える。	1年次以上	特になし	若干名	2	前学期 水曜1時限 (9:00~10:30) 90分×15回	4月2日	4月10日	H25.7.30~ H25.8.6 ※授業中 に実施の 場合もあり
	118	体の科学	治京 玉記	私たちの生命活動は、私たちの体を構成している、無数の分子によって成り立ち、無数の分子ががいがいしく働くことにより維持されている。特にタンパク質は私たちの体を構成する主たる分子群であり、生命活動は、タンパク質によってコントロールされているといっても過言ではない。 本科目では、タンパク質に焦点をあてながら、生命の分子システムについて解説し、生命科学の基礎的な知識を学習することで、総合的な知識と思考力を身につけることを目標としている。	1年次以上	特になし	若干名	2	前学期 水曜1時限 (9:00~10:30) 90分×15回	4月2日	4月10日	H25.7.30~ H25.8.6 ※授業中 に実施の 場合もあり
	119	アートワールド	蒲池 昌江	1. 導入として「アート」および「美術」の概念についての見解を知る。 2. 日本・西洋・アジアの美術史を「表現の歴史と社会」をキーワードに概観し、社会を反映し人々の生活に密接に関わってきた美術表現の面白さについて学ぶ。 3. 投影画像や実物を見ながら美術作品をディスカッション形式で鑑賞し、表現を読み解く。 4. 昨今、様々なかたちで実践されているアートプロジェクトやアートセブ、エイブルアートについての事例を学び、アートと社会の関係性やアートの役割について考察する。 5. 自分のアイデアを生かしたアートプログラムの企画に挑戦する。	1年次以上	特になし	若干名	2	後学期 月曜1時限 (9:00~10:30) 90分×15回	4月2日	9月16日	H26.1.22~ H26.1.30 ※授業中 に実施の 場合もあり
	120	色彩の科学	古賀 和博	一般に現代美術は難解であり、抽象的な美術作品はどこに良さがあるのか分からないと言われることも多いが、美術史の中で後期印象派やキュビズムを経て抽象化する絵画様式を学ぶことは、そうした疑問に対する解明のヒントを与えてくれる。モダニズムという大きな潮流により、様々な展開してきた様式と転換となるポイントを理解し、抽象化する過程を経てモダンアート・モダンデザインへとつながる様式について、それらを読み解く(際に重要なキーワードとなる概念を提示しつつ、ビデオやスライドによる視覚的な鑑賞を行う)。 また、学生自らが現代社会における美術的現象についてテーマごとに調べ、過去の様式との関連性も含めて発表する演習を部分的に行い、レポート等で各自の理解した事柄、自分の考えをまとめる。	1年次以上	特になし	若干名	2	後学期 月曜1時限 (9:00~10:30) 90分×15回	4月2日	9月16日	H26.1.22~ H26.1.30 ※授業中 に実施の 場合もあり
	121	博多学	占部 賢志	当講義では、博多をベースに関係する周辺地域も視野に入れてテーマを設定する。取り扱う対象は悠久の古代から近代に至る歴史と文化とするが、出来るだけ平易に解説したい。沖ノ島は別としてほかの歴史の舞台には気軽に訪ねることが可能な場所が殆どであるから、実際に足を運んで見聞することを勧める。時間が割ければ、オプションで現地への歴史探訪も出来ればと考えている。 また、受講生一人一人にテーマを設定して調査研究に当たって貰い、独自の歴史ガイドのレポート作成並びに発表会などを取り入れる予定である。	1年次以上	特になし	若干名	2	後学期 月曜1時限 (9:00~10:30) 90分×15回	4月2日	9月16日	H26.1.22~ H26.1.30 ※授業中 に実施の 場合もあり
	122	食品流通論	甲斐 諭	1. 世界と我が国の食料経済、特に食料の生産・加工・流通・貿易が理解できるようにする。 2. 食料価格の変動要因を知り、価格乱高下の要因は食料の供給不安定性と需要の価格弾性値が小さいことにあることを理解する。 3. 生鮮食料品である青果物、鮮魚、食肉の主要流通経路と卸売市場の構造・機能および農産物直売所の存在理由を理解する。 4. 国際貿易理論及び食料貿易の光と影を理解する。	2年次以上	特になし	若干名	2	後学期 火曜1時限 (9:00~10:30) 又は 火曜2時限 (10:45~12:15) 各90分×15回	4月2日	9月17日	H26.1.22~ H26.1.30 ※授業中 に実施の 場合もあり
	123	アジア食文化事情	三成 由美 徳井 敬孝	日本人の食文化を構成する要素の起源は中国大陸や朝鮮半島をルーツとしている。日本を含むアジアとは世界の中でどういう位置にあるのか、また各国の食生活の特色、独自性と共通性はどのようなものかを考え理解を深める。 本講義では、東アジアの食の歴史、食材、食事文化、食器・食具、食事の作法、そして食文化の国際交流など、様々な角度から解説し、講義を進めていく。	1年次以上	特になし	若干名	2	後学期 月曜1時限 (9:00~10:30) 90分×15回	4月2日	9月18日	H26.1.22~ H26.1.30 ※授業中 に実施の 場合もあり
	福岡 歯科 大学	124	コミュニケーション・トレーニング	口腔保健学講座 口腔健康科学分野准教授 町田 弘幸	創造性・協調性・多様性理解など、円滑なコミュニケーションに必要ないくつかの方法を、実践を通して理解し、身に付ける。	1年次以上	特になし	若干人(各大学 10人以内)	1	土曜日 昼間 9-10月 240分(3コマ)×4日	7月	9月~10月
125		福博の歴史と文化探訪	細胞分子生物学講座 分子機能制御学分野 教授 山崎純	この科目は我々が現在生活しているこの福岡・博多の地域について考え、知ることを目的とした講座である。福博の歴史と文化、自然などをさまざまな角度から考え、学んでいきたい。この講座で学んだことを通じて、現在から将来にわたって自分を取り巻く地域や社会とどのように関わり、貢献出来るのかについて考察する。	1年次以上	特になし	若干人(各大学 10人以内)	1	4/11-5/16 講義毎週木曜3限 (13:00~14:20) 80 分×4回 ・現地見学土曜×3 回 (4/13、20、27、 5/11の4回中3回出 席すること)	4月8日	4月	試験なし

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	申込締切 等	授業開始 日	試験日	
福岡大学	126	消費者行動分析A	齋藤 参郎	本講義であつた内容はすべて消費者の行動に関連しています。とくに、消費者の行動をモデル化し、その行動変化を予測する方法や、消費者の行動変化が社会にどのような効果をもたらすのかに着目します。その意味で、消費者行動分析といえます。具体的には、消費者の買物の先行選択や買物・レジャー・食事に出かける回数、出向頻度の選択、都心部での買回り行動に焦点をあて、消費者行動分析の方法を理解することが本講義の目的です。	3・4年次	特になし	若干名	2	【前期】 水曜日4時限	4月5日 (金)	4月10日 (水)	7/24(水) 3限目
	127	消費者行動分析B	齋藤 参郎	本講義であつた内容はすべて消費者の行動に関連しています。とくに、消費者の行動をモデル化し、その行動変化を予測する方法や、消費者の行動変化が社会にどのような効果をもたらすのかに着目します。その意味で、消費者行動分析といえます。具体的には、消費者の都心部における買回り行動である回遊行動に焦点をあて、回遊行動をどのようなモデルとして表現し、どのように都心空間の評価に結びつけていくことができるのか、回遊を促進することによって都心部にどのような経済効果をもたらすことができるのか、都心部の開発によって、集客数がどのように増え、人の流れがどのように変化するのか、の予測などを中心に、消費者行動分析の方法を理解することが本講義の目的です。	3・4年次	特になし	若干名	2	【後期】 水曜日4時限	4月5日 (金)	9月18日 (水)	【H26】 1/15(水) 3限目
	128	現代を生きる (災害から自分や家族を守る)	重松 幹二	この講義では、防災に関する基礎知識を学ぶことにより、災害から自分や家族を守る術、被害を最小にする準備と対応方法を修得する。特に、 ・自動(自分や家族の命はまず自分たちで守らなければならない) ・共助(被災した近所の人を助けることの重要性) ・公助(公的機関による救援行動の大災害時における脆弱さ)の考え方を柱とし、各トピックスを理解することで、一生涯役に立つ教養を身に付けることができる。 本講義は、各学部のスタッフおよび福岡市役所・消防局・各種報道機関からの講師によるオムニバス形式で進められ、文系理系両側面から防災に関する知識を広く得ることに特徴がある。	全学年	特になし	若干名	2	【後期】 水曜日4時限	4月5日 (金)	9月18日 (水)	【H26】 1/22(水) 5限目
	129	基礎防災学	鶴田 直之	この講義では、防災に関する科学的・工学的基礎知識を学ぶことにより、災害から自分や家族を守る術、被害を最小にする準備と対応方法を修得する。特に、自然災害の発生メカニズムや被害予測、災害発生時に必要となる社会システムや被害を軽減する技術、産業活動における安全性配慮の必要性を学び、一生涯役に立つ防災基礎を身に付けることができる。	全学年	特になし	若干名	2	【前期】 月曜日5時限	4月5日 (金)	4月15日 (月)	7/25(木) 6限目
	130	健康スポーツ心理学	山口 幸生	本講義は、スポーツ心理学Ⅱという名称であるが、1年次に開講されているスポーツ心理学Ⅰとは内容的に異なり、運動を中心とした健康づくりの指導者をめざす学生を対象にしている。そのため、競技スポーツにおける競技力向上に関する内容は取り上げない。一般に健康のために運動を始めた人の継続率は、半年で50%、1年で30%とされている。このことから現在の地域、企業、医療機関等における指導者の大きな関心は、いかに運動などの健康行動を生活習慣化させるか、にあるといえる。 健康づくりの指導を本講義の意味で成功させるためには、医学、生理学的な知識に加えて、対象者の価値観や意欲レベル、健康行動の阻害要因など、人間をトータルにみていく能力が求められている。そこで本講義では、健康づくりにおける運動行動の変容や、その維持を促す指導をする上で必要な行動科学的視点を獲得することを目的とする。	2年次	特になし	若干名	2	【前期】 水曜日3時限	4月5日 (金)	4月10日 (水)	7/31(水) 3限目
	131	生涯スポーツ論	薬山 泰典	「スポーツ=身体活動」といった認識が一般的かもしれないが、この授業での目標は「スポーツの社会的役割を考える」である。生涯スポーツという言葉は聞き慣れない言葉かもしれない。そのため、「生涯スポーツとは何か?」から授業を始める。授業では、オリンピックに関する内容から展開を始める。その後、サービシとしてのスポーツを解釈しながら、スポーツの多様性を読み取ることを企図する。その後、近年アタプティッドスポーツと表現される障害者スポーツを題材に、誰のためのスポーツなのかを考える。授業後半では、レクリエーションやキャンプに関する知見も深める。授業内では視聴覚教材を積極的に用いていく。また、毎回授業の最後レポートを作成する時間を設け、提出を求める。この授業を通じて、スポーツを考えるということを受講生が自ら気づく機会になるよう、積極的に授業展開を図る。	1年次	特になし	若干名	2	【前期】 金曜日4時限	4月5日 (金)	4月12日 (金)	7/30(火) 5限目
	132	健康スポーツ論	楢垣 靖樹	身体活動量の不足あるいはエネルギー摂取量の過剰に起因する生活習慣病の有病者数は増加の一途をたどっており、疾病予防を目的とした健康スポーツの果たす役割とその期待は大きい。国民の健康増進に資する基本的知識を習得し、氾濫する健康情報より有用な情報を選別できる能力を養うことを目的とする。まず、今までに報告された運動疫学関連の情報を整理する。1950年代に英国のモリス氏が行ったバス運転手と車掌を対象とした心臓発作罹患のリスクを評価した研究、1970年代に米国のパップエンバーバー氏が行ったハーバード大学卒業生の身体活動量と心臓発作罹患に関する研究、さらには1980年代に澤田氏が行った東京ガスの従業員を対象とした有酸素能力と生命予後、高血圧罹患リスク、がん罹患リスクなどの研究より、原因と結果の因果関係を探る手法とその解釈について学ぶ。次に、わが国で展開されてきた健康政策として、早期発見・早期治療の時代から一次予防重視への政策転換の意義を理解し、今後の健康施策のあり方について議論する。特に、2006年に発表された健康づくりのための運動指針については、十分に理解し実践できる能力を身につけることが重要である。最後に有患者に対する運動処方として、関係学会のガイドラインを参照し運動種目、強度、量などエビデンスに基づく運動療法の実際を習得する。	2年次	特になし	若干名	2	【後期】 月曜日1時限	4月5日 (金)	9月16日 (月)	【H26】 1/25(土) 1限目
	133	体力学	田中 守 田中 宏暁	体力という言葉に親しみのある人は多いであろう。「健康・体力づくり」「体力トレーニング」「日本選手は体力不足」などよく見聞きする。しかし体力とはどのように捉えられているのだろうか? 競技力や健康とどのように関係するのか? 体力は遺伝的に決まっているのだろうか? 体力を効率よく高めるにはどうしたらよいのか? さまざまな疑問が湧いてくる。もう少し具体的に書いてみよう。身体は適度に使うと機能が向上する。例えばかなり重いバーベルを何度か持ち上げると筋力がついていくことは誰もが知っている。しかしどの程度の重量をどれだけ繰り返して持ち上げれば良いのだろうか? 一方使わないと筋力は低下する。低下をくい止めるには最低どの程度の負荷が必要なのだろうか? 筋力が付くと身体にはどんな変化が起こっているのだろうか? どこまで高められるのだろうか? 筋力と競技力、健康とはどのような関わりがあるのだろうか? このような疑問に答えるには身体の適応性ということを理解することが大切である。体力学を学ぶためには基本的な解剖生理学やスポーツ生理学の知識も欠かせないので、併せて学んでいってほしい。体力学を学ぶことは実際の健康づくりや競技力向上に欠かせないし、またすぐに役立つことが多い。身近な話題も交えて講義を展開していくつもりなので、授業中は活発な討議を期待している。	1年次	特になし	若干名	2	【後期】 木曜日1時限 または 水曜日2時限	4月5日 (金)	9月19日 (木)	【H26】 1/15(水) 4限目

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	申込締切等	授業開始日	試験日
134 福岡大学	レジャー・レクリエーション総論	葉山 泰典	「レジャーやレクリエーション」を論じる際、その背景に存在する「自由時間」との関係を考える必要がある。そのため、この言葉の意味はそれぞれの聞き手にとって日常の過ごし方によって異なり、また同じ人であってもライフステージ（幼児期から高齢期に至る6段階）によって変化するものである。必然的に「多様性を持った言葉である」との認識が必要となる。そして、このレジャー・レクリエーション活動の目指すところはそれぞれのライフステージに応じた“よりよい生活(QOL)の向上”であり、“よりよい健康(Wellness)”にあると考える。そのため、ウェルネスという言葉の理解も授業の中に組み込む。この講座を通じて、レジャー・レクリエーションに関しての知見を深め、それを活かした「自身のライフスタイル向上」を考えてもらいたい。そして、「実践的に人に伝えていくことのできるレクリエーション指導者としての基盤を形成すること」が本講座の目標となる。その為、講座の中盤では教育・福祉・地域活動それぞれの側面からレクリエーションの役割について具体的に言及し、「レクリエーションを通じた社会貢献の在り方を」考察していく。また、実際の企画運営時、必要となる「リスクマネジメント」に関して言及し、具体的な企画作成を行う。	2年次	特になし	若干名	2	【後期】 金曜日3時間	4月5日 (金)	9月20日 (金)	【H26】 1/20(月) 5曜日
135 九州大学 西南学院大学 中村学園大学 福岡大学 福岡歯科大学 (共同開講科目)	博多学	宮本 一夫(九州大学) 柴田 建(九州大学) 磯 望(西南学院大学) 宮崎 克則(西南学院大学) 松隈 紀生(中村学園大学) 黒瀬 秀樹(福岡大学) 渡辺 亮一(福岡大学) 山崎 純(福岡歯科大学)	博多を博多湾や水事情および災害などの「自然」、対外交流、文化普及などの「歴史」、食文化、外来文化などの「文化」の面から考察する。	学部1年次以上	特になし	各大学 30人以内	1	集中講義 (約13時間講義+実地見学)	所属大学の教務担当窓口にお問い合わせください。 8/8,9の集中講義	実地見学土曜(4/14,21,28,5/12)のいずれか1日 8/8,9の集中講義	試験なし